



JFIA 誌編集委員長就任にあたって

長岡 勉

大阪府立大学工学研究科
物質・化学系専攻応用化学分野

今年度から本誌の編集委員長を務めさせていただくことになりました。前任の今任先生のように立派なジャーナル作りができるか、心配な面も感じていますが、皆様のご協力を得て本紙をさらに充実・発展させていきたいと考えていますので、是非よろしくお願いいたします。

実際に本誌の編集を始めて見ると、いろいろな点に気がつきました。FIA とその周辺分野に関する記事が実に多彩に掲載されています。学術論文はもとより、指標、トピックス、学会参加報告、Bibliography など、内容は多岐にわたります。これらの情報を年2回という間隔で会員の皆様にお届けするのが私の使命ですが、情報過多ともいえる昨今、ゆっくりと紙面を見ていただけるのに最適の回数ではないかと思っています。

学術論文に関しては、内容の高いレベルの維持が必要となります。このためには的確な審査を行う必要があります。皆様にはお忙しいところ恐縮ですが、査読の依頼が来た場合には是非お引き受けいただきますようお願いいたします。

また、本誌は英語での論文、記事の掲載を行っております。本紙の国際誌としての地位確立を今後さらに推し進めるため、皆様には是非英文での投稿をご検討ください。本誌はFIA 専門誌として世界にも類も見ない研究・情報媒体として今後も発行を続けていきますが、同時に関連分野の情報も積

極的に取り入れながら、広い間口をも有するジャーナルとして発展させていきたいと考えています。

また、国際性と専門性の深化は多くのサイエンス・ジャーナルの目標ですが、本誌の発行目的はそれだけではなく、会員諸氏のコミュニケーションも重要なことと考えています。

特にJAFIA の魅力は「参加して楽しい」ことであります。先日5月18日に鹿児島で本年度第一回目の編集委員会を開催し、編集方針に関して充実した議論ができましたが、続く懇親会ではさらに楽しい話題で盛り上がりました。編集委員の年齢ダイナミックレンジはかなり広いのですが、これまで培われた「フランクに話し合える」環境のおかげで、肩のこらない話題で大変楽しいひとときを過ごせました。今回欠席された編集委員の皆様には次回是非ご参加いただき、誌面作りにご協力いただきますようお願いいたします。特に今回の編集委員会のリニューアルでは若い方が多く就任されています。これに伴い、誌面の若返りも積極的に進めていきたいと思っておりますので、是非ともご協力の程よろしくお願いいたします。

最後に、会員の皆様にはFIA 研究の発展にJFIA 誌をさらに積極的にご活用いただくと共に、編集委員会にもご要望をお寄せいただき、紙面の充実にもご協力いただければ幸いです。